

## 国 語

### 1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年 度	1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 (1) 目標 (2) 各科目 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科目構成の変更と「国語総合」が共通必修科目となったことの確認</li> <li>○言語活動の充実と、古典に関する指導の充実に重点を置いて改善が図られたことの確認</li> <li>○小学校及び中学校との系統性を重視して、「想像力を伸ばす」ことについての記述が加わったことの確認</li> <li>○各科目ごとの目標及び内容の構成と取扱いの確認</li> <li>○A、B科目を設定したねらいについて</li> <li>○言語活動の充実を図る上での留意点について</li> <li>○言語文化に関する指導において充実させるべき事項について</li> </ul>
平成 22 年 度	1 全般的事項  2～5 各科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の目標について</li> <li>○国語科における教育課程の編成に当たって配慮すべきこと               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇共通必修科目「国語総合」の履修順序</li> <li>◇Aを付した科目とBを付した科目</li> <li>◇義務教育段階での学習内容の定着</li> </ul> </li> <li>○言語活動の充実について               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇各教科・科目との関連</li> <li>◇言語活動を通して指導事項を指導すること</li> <li>◇言語活動は既習事項であること</li> <li>◇言語活動は創意工夫が求められること</li> </ul> </li> <li>○各科目における指導上の留意点について</li> </ul>
平成 23 年 度	1 教育課程の編成  2 指導計画の作成と内容の取扱い  3 言語活動を充実する学習指導の実践例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な考え方の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇育てたい言語能力についての学校全体での共通理解</li> <li>◇他教科との連携</li> </ul> </li> <li>○配慮すべき事項の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「国語総合」の履修順序と標準単位数の確保</li> <li>◇〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</li> <li>◇学習の過程と系統性への配慮</li> <li>◇義務教育段階の学習内容の確実な定着</li> <li>◇言語文化に関する指導の充実◇読書活動の充実</li> </ul> </li> <li>○特色ある教育課程の編成についての確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇科目の履修順序◇科目の履修学年◇教育課程編成の参考例</li> </ul> </li> <li>○指導計画作成上の留意点の確認</li> <li>○内容の取扱いの確認</li> <li>○「国語総合」の年間指導計画の参考例</li> <li>○単元の指導と評価の計画</li> <li>○各時間の指導と評価の計画               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇言語活動を通して指導事項を指導</li> <li>◇指導と評価の一体化</li> </ul> </li> </ul>
平成 24 年 度	1 学習指導の改善・充実  2 評価方法の改善・充実  3 学習評価の具体例  4 観点別評価の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導の改善の視点の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇言語活動の充実◇義務教育段階の学習内容の確実な定着</li> <li>◇見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動</li> </ul> </li> <li>○学習評価の改善・充実の視点の確認               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇目標に準拠した評価◇観点別の評価規準に基づいた評価</li> <li>◇評価の対象</li> <li>◇評価の観点「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」◇各観点に対応する指導事項</li> <li>◇評価方法◇評価の手順</li> </ul> </li> <li>○「現代文B」の学習指導案の作成例</li> <li>○観点別評価の進め方○観点別評価を踏まえた指導の改善</li> </ul>

## 2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

学習は、生徒の実態に即し、生徒の言語能力を意図的・計画的に伸ばし高めるものでなければならない。したがって、生徒の言語能力の実態を的確に把握した上で、学習の段階や系統性等に配慮しつつ、評価規準・評価方法、指導内容等を具体的に配列して、単元を構成することが大切である。

そのため、年間指導計画を作成するに当たっては、構成する各単元の目標や指導内容等が、その科目の目標や指導事項、言語活動例等のどこを踏まえ、また、どのように関連しているかを明確にし、あわせて指導時数を示す必要がある。

このように、計画を作成する過程では、学習指導要領をはじめ学習評価の枠組みなどについての十分な理解等が不可欠であり、このことこそが、計画の質、ひいては指導の質を保証する。

### (1) 年間指導計画の作成上の留意点（手順）

- ① 目標の明確化  
(生徒の実態に応じて身に付けさせたい言語能力(目標)を明確に設定する。)
- ② ふさわしい言語活動の選定  
(身に付けさせたい言語能力を育成するのにふさわしい言語活動を位置付ける。)
- ③ ふさわしい教材の選定  
(身に付けさせたい言語能力を育成するための言語活動にふさわしい教材を選定する。)

#### ～年間指導計画作成の効果～

- 学習指導要領の十分な理解が深まり、計画と指導の充実が図られる。
- 指導事項の重点化が図られる。
- 育成する言語能力と、言語活動の区別がなされる。
- 「教材ありき」という意識の脱却が図られる。
- 指導時数及びバランスの確保がなされる。
- 観点別学習状況の評価の促進、改善が図られる。
- 評価規準に基づく評価の促進、改善が図られる。 など

#### ◇年間指導計画作成チェックリスト◇

- 学習指導要領の教科の目標・内容を十分に踏まえているか。  
→ 地域や生徒の実態に照らした、具体的な目標の設定
- 当該科目の担当者のみで作成することなく、組織的な取組となっているか。  
→ 国語科教員全員による指導方法等についての検討、協議
- 「教材ありき」の計画ではなく、育成したい言語能力が明示されているか。  
→ 身に付けさせたい言語能力の位置付け
- 言語活動が明示されているか。  
→ 学習指導要領の指導事項に基づく、生徒の実態に応じた言語活動の選択
- 学習評価についての理解は十分か。  
→ 目標に準拠した評価の着実な実施

(2) 年間指導計画の例

学期	月	単元名 ①	主たる目標 (学習指導要領の指導事項) ②	評価の観点	評価規準 ③	評価方法 ④	言語活動 ⑤	教材 ⑥	時数	各教科等との関連 ⑦
前期	4	表現を楽しもう～自己紹介をしよう～	目的や場に応じて、効果的に話したり聞き取ったりすること。	関心・意欲・態度	目的や場に応じて、効果的に話したり聞き取ったりしている。	行動の観察	状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりする。	・スピーチの方法を学ぶためのワークシート ・スピーチ原稿を作成するためのワークシート ・相互評価表 ・自己評価表	4	・総合的な学習の時間におけるプレゼンテーション
				話す・聞く能力	目的や場に応じて、効果的に話したり聞き取ったりしている。	記述の確認				
				知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	記述の点検				
前期	4	説明的な文章を読んで筆者の考えをつかもう	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。(イ)	関心・意欲・態度	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりしている。	行動の観察 記述の確認	文章を読んで内容を理解し、自分の考えをまとめて話したりする。	・『日本文化』 ・ワークシート	6	生徒に、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けさせるためにも、各教科や特別活動等と関連した取組を工夫する。
				読む能力	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりしている。	記述の確認				
				知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	記述の分析				
後期	3	登場人物の視点の違いから新しい発見をしよう	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。(ア)	関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。	行動の観察 記述の確認	同じ素材を取り上げた2つの古文を読み比べて、違いに着目して批評文を書く。	・伊勢物語(筒井筒) ・大和物語(149段)	6	・図書館の活用
				読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	行動の観察 記述の確認 行動の分析 記述の分析				
				知識・理解	文語のきまり、訓読のきまりなどを理解している。	記述の点検				

国語の「評価の観点」は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つである。

「単元」は、指導事項が偏らないように各単元を系統的に配置する。

「評価規準」には、「おおむね満足できると判断できる」(B)の評価内容を記載する。

批評文を書くために、古文を読み比べる、視点を変えて読み直すという段階を経ることによって、多角的に考えることができるよう工夫されている。

※「主たる目標(学習指導要領の指導事項)」の(ア)、(イ)は、各領域の指導事項である。

番号	項目	作成上の留意事項
①	単元名	単元全体の学習内容が分かるように、単元名の工夫をする。
②	主たる目標	学習指導要領の指導事項を基準に、生徒の実態に応じた目標を立てる。
③	評価規準	「おおむね満足できると判断できる」(B)の評価内容を記載する。
④	評価方法	言語活動を通じた段階的な評価(観察→確認→点検)となるようにする。
⑤	言語活動	学習指導要領の言語活動例を参考にし、生徒の実態に即した言語活動を選ぶ。
⑥	教材	教科書の教材名のほか、独自教材や使用するワークシートなどを記載する。
⑦	各教科等との関連	各教科との連携した取組や、図書館等関係施設の活用などを工夫する。

### 3 観点別学習状況の観点別の総括

#### (1) 単元終了時の総括

##### ○ 観点別に総括 ～評価機会の回数に応じた総括の方法～

- |                  |   |                                   |
|------------------|---|-----------------------------------|
| (ア) 1 回 の 場 合    | → | その評価が単元における評価となる。                 |
| (イ) 2 回 以上 の 場 合 | → | 各回の評価を平均する。<br>又は、最終の評価を単元の評価とする。 |

##### ※ 各単元の評価と定期考査について

定期考査により複数の単元を一括して評価するのではなく、各単元の指導後に評価を行うことにより、指導の時期と評価の時期が離れることなく、指導と評価の一体化を図ることができる。

なお、各単元の評価を表計算ソフトなどを用いて集積し、評価を指導の改善に生かすほか、総括する際の効率化を図ることが望まれる。その際、学習指導要領の内容の(1)の指導事項別に、評価を入力できるようにしておくこと、各指導事項の評価の経緯を見ることが出来る。

#### (2) 各学期の評価の総括

##### ア 各指導事項の総括 ～各指導事項の総括の方法～

- |                              |
|------------------------------|
| (ア) 各指導事項の評価を平均する。           |
| (イ) 各指導事項の最終の単元の評価を学期の評価とする。 |

国語の指導は、同じ指導事項を螺旋的に繰り返して指導していくことと、既習事項を言語活動として指導していくことが特色であり、したがって、各指導事項の評価については、(イ)の方法がふさわしいと考えることができる。

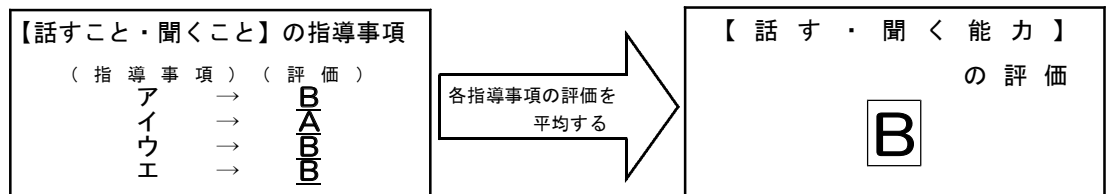
ただし、学期の最終の単元で発展的な内容を扱った場合や定期考査の結果を指導事項別に評価している場合などは、学校や生徒の実態に応じて、(ア)の方法との併用を考えてよい。

##### ※ 各指導事項の評価を、観点別に総括することについて

各指導事項の評価を、観点別に総括する場合には、それぞれの評価を平均することが一般的である。

ただし、学期で重点を置いて指導した指導事項がある場合などには、その指導事項の評価を重視するなど、指導事項ごとに比重を変える工夫が必要である。

なお、各学期の評価は、観点別の評価で通知表等に記載するのが最も効果的である。



##### イ 科目として総括 ～各学期の観点別評価を総括し、科目としての評価を出す方法～

- |                                   |
|-----------------------------------|
| (ア) 各観点の評価を平均して、A、B、Cの3段階で評価する。   |
| (イ) 各観点の評価を平均して、5段階（又は10段階）で評価する。 |



## Topic

### 小学校・中学校との系統性を重視した古典の指導

今回の学習指導要領の改訂では、「国語総合」に小学校及び中学校と同じく〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が示されました。

豊かな古典の世界に触れる前に、生徒を古典嫌いにしてしまうことのないよう取り上げる教材や指導の方法を工夫し、古典の世界に楽しく触れることができる授業を展開し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成していく必要があります。そのため、高等学校の国語科担当教員は、生徒が中学校までに学習した内容を理解することが必要です。

次は、小学校、中学校及び高等学校（国語総合）の学習指導要領に示された〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕をまとめたものです。

#### 【小学校】

##### 第1学年及び第2学年

○昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

教科書に掲載されている主な教材：「いなばの白うさぎ」「三まいのおふだ」「かさこじそう」など

##### 第3学年及び第4学年

○易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

○長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

教科書に掲載されている主な教材：良寛・芭蕉・一茶・蕪村・子規・啄木の作品、「百人一首」など

##### 第5学年及び第6学年

○親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

○古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

教科書に掲載されている主な教材：「竹取物語」「枕草子」「平家物語」「論語」など

#### 【中学校】

##### 第1学年

○文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

○古典には様々な種類の作品があることを知ること。

教科書に掲載されている主な教材：「竹取物語」「伊弉保物語」「韓非子」など

##### 第2学年

○作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

○古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

教科書に掲載されている主な教材：「万葉集」「平家物語」「徒然草」など

##### 第3学年

○歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

○古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

教科書に掲載されている主な教材：「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」「おくのほそ道」など

#### 【国語総合】

○言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。

○文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

発達の段階を踏まえた学習の系統性